

公開シンポジウム 京都伝統文化の森推進協議会 取組報告②

「京都東山の森づくりにおける地域力の活かし方」 参加者質問及び回答

① 祇園祭と東山について。京都の伝統行事のひとつに祇園祭があります。このホコ（ヤマ）に飾られている松と杉は京都産ではなく、四国から購入されていると聞きました。色んな経緯があることですが、将来は年に1回、松が供給できる山づくりはできないものでしょうか。

- ・ 数年前のシンポジウムで、当時、祇園祭の松等が府外から来ていたことから、是非、京都府産のものを使おうということになり、一度、京都府産のものを使ったという話を聞きました。（田中）
- ・ 祇園祭の北観音山は京北産の松を使っていると聞いたことがあります。また、大文字山保存会の送り火の松は、花脊で調達していると聞きました。将来的に全て京都府産にできれば良いのですが、資源に限りがあるので、かなり難しいと思います。（外山）

② 林相改善について。林相改善のために目指している高木群は何か。結果（効果）はどのように見ているか。シイの木はどうしてダメなのか。

- ・ 林相改善事業は、種の多様性という意味と、少し明るい林を作っていこうという目的があります。ですから、シイを全て否定するのではなくて、本来の植生であるシイと落葉樹が混じって色々な樹木が入ってくるような森林づくりができないかと取り組んでいます。伐採後、そのままにしておくあまり樹木が入ってこない場所については、少し植栽をしています。また、天然更新を目指している場所については、サクラの仲間やカエデの仲間が少しずつ入ってきています。（安藤）
- ・ シイの木そのものが悪いのではなくて、シイの木ばかりになることが問題なのです。特定の動物とか特定の植物だけが増えるということになると、自然界の多様性が失われてしまいます。過去40年間で、清水山のシイの木の面積は、5倍近く拡大しています。（田中）
- ・ 東山はシイの木が増えすぎて、暗くてあまり種類がない。反対に阿弥陀ヶ峰（五条通りより南の国有林）は人の手が少し入っているので、色々なものが生えている。人間の手の入った森の方が気持ちよく感じます。（高桑）
- ・ これまで森林が一斉林形になった場合、山が全滅してきました。現在、マツ枯れ、ナラ枯れによって、一斉林化しつつあります。これを一斉林化しないようにする必要があります。（外山）

③ ナラ枯れ被害は二度ほど終息または減少していますが、その理由を教えてください。

- ・ マツ枯れは外国からやってきたマツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリによって、ナラ枯れはカシノナガキクイムシによって広がります。これらも森が若返る一種の自然循環の1つだと私は考えています。これまでは人間が積極的に木を使っていたので、ごく一部でしか発生しませんでした。里山を5～60年ほったらかしにしたため、大きな問題になってきています。だから、木をどんどん切って利用しなくてははいけません。利用することによって、森は若返り、私達も楽しめ、結果的に生物の多様性も高くなります。（高桑）

- ・ ナラ枯れは現在終息しつつありますが、また復活して襲ってきます。(ナラ枯れも森の伝染病であるため) 伝染病というのは、波のように繰り返しやってくる傾向があります。(田中)

④ 森林整備を行う団体に対する助成措置について、高桑先生は助成金に頼らずと言われていますが、私は時には必要だと思います。ただし、たいていは NPO 対象なのです。企業では駄目なのですか。継続させるにはビジネス化しないと駄目だと思います。日本の NPO はその点（ビジネス的思考）は不足しており、継続しない欠点がある。

- ・ 現在、森林整備を行っている団体には、NPO もあれば、企業が CSR の一環として行っているものもあります。確かに NPO だと資金的に厳しくなってくると続かないということがあります。今年から森林整備を行う団体に対する助成措置が行われるのですが、これは森林整備を行うための動機付け（きっかけ）の助成措置だと思っています。そのきっかけから、地域からの寄付を受ける仕組みをつくるというふうな取組みが必要だと思います。(外山)

⑤ 高桑先生ご提案の景観保全の基金について。森の保全のために通行税（京都市民以外の人から）を徴収しようではありませんか。

- ・ 二酸化炭素削減に協力してもらおうということで、他府県から 1 人で来る場合は二酸化炭素税を取ることになれば、公共交通機関を利用するかカーシェアリングをしてくるという流れになり、結果的に二酸化炭素の削減に繋がるかもしれませんね。(高桑)

⑥ 伝統文化の森推進協議会の構成員数は何名くらいですか？本日、そのうち何名が来られていますか？

- ・ 委員の数は約 30 名です。本日、講演していただきました 3 名の方の内、2 人が委員です。その他 1 名が会場に来られています。(事務局)

⑦ 小学校から森の教育が大切だと言われましたが、京女大の付属小学校ではどのような教育をしておられますか？

- ・ 京都女子大学では、阿弥陀ヶ峰国有林を環境教育に使おうと、2008 年に大学と林野庁で協定を結びました。京女附属小学校では、その阿弥陀ヶ峰国有林を活用して、1 年生～6 年生までが山へ行き、森林学習をしています。しかし、教師自身が森のことをあまり知らないのです、先生がまず勉強することが必要だと感じています。(高桑)